

# 赤穂化成、塩カル拈販

## 透析用薬剤原料に提案

赤穂化成は、高純度な塩化カルシウム（二水和物）市場への参入を本格化する。石灰と塩酸の反応法による自社製造品で2014年に年産能力600トの新製造棟を立ち上げて以降、試験生産を経て量産体制を構築した。食品添加物用途向けに供給を始めており、同用途での拈販を図る。同時にGMP対応の製造プロセスを生かすことで、実績のある塩化カリウムや塩化マグネシウムとともに透析用医薬用途への展開を加速する。16年度に売上高5000万円を目指す。

赤穂化成は14年に赤穂工場（兵庫県赤穂市）内に新製造棟を建設。塩化カルシウムをはじめ、塩化カリウム、塩化マグネシウムを製造できる反応釜や精製設備を導入し、年産600ト体制を整えた。異物低減や品質の安定化を実現、白色結晶状

の塩化カルシウムの製造から開始している。すでにカルシウム強化剤向けなどの食品添加物用途で供給が進んでいる。同社が塩化カルシウムを製造するのは初めてで、要望に応じた純度への対応などにより事業拡大を狙う。

製造管理体制では日本薬局方の規格品製造に対応している。同社は既存製造棟におけるGMP対応の生産ラインで、透析用薬剤で塩化カルシウムとともに使用されることが多い塩化カリウム、塩化マグネシウムの製造実績がある。塩化カリウム



赤穂工場の新製造棟外観。新製造棟では塩化カルシウムをはじめ、塩化カリウム、塩化マグネシウムを製造できる

およびマグネシウムは溶解再結晶法で製造するため、既存製造棟では塩化カルシウムは製造できない。

一方、新規製造棟では3種類の製造が可能で、必要に応じて生産全体の最適化を図る方針

針。今後、塩化カルシウムでも透析用薬剤の原料として製薬企業への提案を本格化し、医薬関連用途での事業拡大を加速する考え。海外の薬局方の規格にも対応していくほか、新製造棟では年産能力を最大で倍増できるスペースを確保している。